

令和7年度

徳島県立川島中学校

学校評価についての総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
<p>(1) 中高一貫教育の推進</p>	<p>① 中高連携の促進に努め、生徒の個性や能力を伸長するとともに、異年齢集団における社会性の育成に努める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	<p>① 「中高合同で実施された行事は高校生との交流を深めるのに役立っている」と回答する割合が生徒・保護者ともに85%以上をめざす。</p> <p>② 「中学校の先輩や高校生の姿を見て、学校生活の見通しや目標をもつことができる」と回答する生徒の割合が85%をめざす。</p> <p>・「6年間を見通した特色のある教育を行っていると思う」と回答する割合が85%以上をめざす。</p>	<p>① 「文化祭や体育祭などの中高合同の行事は高校生との交流を深めるのに役立っている」と回答した生徒の割合は80%、保護者の割合は95%であった。</p> <p>② 「中学校の先輩や高校生の姿を見て、学校生活の見通しや目標をもつことができる」と回答した生徒の割合は76%であった。</p> <p>・「本校は、6年間を見通した特色ある教育を行っている」と回答した生徒の割合は88%、保護者の割合は83%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>(所見)</p> <p>アンケートによるとおおよその指標は達成できているが、「先輩や高校生の姿から学校生活の見通しや目標をもつことができる」と回答した生徒は少なくなっている。今年度は高校生が行った様々な「総合的な探究の時間」の活動を周知したが、自分の将来と照らし合わせて考えることがまだできていない。</p> <p>総合的な学習の時間については、中高一貫校である本校ならではの特色ある教育活動を行う必要がある。高校生が実施している企画等を参考に、生徒が自ら考え、行動できるような活動を計画をする必要がある。</p>	<p>・評価指標②の「中学校の先輩や高校生の姿を見て、学校生活の見通しや目標をもつことができる」は昨年度の指標より達成度が高くなっている。高校生が中学生のお手本となり、見通しをもてるというのは生徒の主体性につながることであり、他の学校にはない中高一貫教育校の魅力であると思う。</p>	<p>・総合的な学習の時間を柱として、中高一貫教育校である本校ならではの特色ある教育の充実を図る。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① ・中高合同の教科会や中高相互の授業見学を通して、学びの縦のつながりの連携を図る。また、「先輩から学ぶ」や「スペシャルアプローチ(SA)」を実施し、中学校から高校へ円滑な移行ができるようにする。</p> <p>・めざす生徒像や昨年度のアンケート結果をもとに、中高連携の学校行事をより充実させる。</p> <p>② ・中高一貫教育推進委員会を定期的に実施し、中高合同で行う行事や中高の連続性の指導のあり方について検討する。</p> <p>・総合的な学習の時間を6年間を見通した探究活動になるよう、中高の連携を強化する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ・中高合同の教科会は年3回実施しており、生徒の現状や教科指導について、報告や意見交換を行った。中高相互の授業見学では、中学校での学びが高校でどのように深まるのかを知ったり、中学校でどのように学んできたかを知ったりすることができた。また、2年生の「先輩から学ぶ」では、高校の学習や生活について高校生に質問することで、高校生活について知り、今自分のすべきことについて考えることができた。</p> <p>・アンケート結果をもとに、来年度の体育祭の実施時期の検討をするなど、生徒の意見を反映させることができた。</p> <p>② ・中高一貫教育推進委員会や校務運営委員会において、中高のつながりを感じることができるように行事のあり方について検討を行った。</p> <p>・高校生が総合的な探究の時間に企画したイベント情報の周知をしたり、5年生の探究発表を3年生が聴いたりすることで、特色のある取組を行っていることや、学校生活の見通しがもてるように連携の機会を増やせるように努めた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>(所見)</p> <p>アンケートによるとおおよその指標は達成できているが、「先輩や高校生の姿から学校生活の見通しや目標をもつことができる」と回答した生徒は少なくなっている。今年度は高校生が行った様々な「総合的な探究の時間」の活動を周知したが、自分の将来と照らし合わせて考えることがまだできていない。</p> <p>総合的な学習の時間については、中高一貫校である本校ならではの特色ある教育活動を行う必要がある。高校生が実施している企画等を参考に、生徒が自ら考え、行動できるような活動を計画をする必要がある。</p>		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度			
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。 ② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。 ③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の研究を推進する。	① 「学習活動に目標をもって計画的に取り組んでいる」と答える生徒、保護者の割合が80%以上をめざす。 ・『至誠ノート』で計画や日々の振り返りができた」と答える生徒の割合が80%以上をめざす。 ② 「中学校の授業は、わかりやすく工夫されている」と答える生徒の割合が85%以上をめざす。 ・「6年間でしっかりとした学力を身に付けることができる」と答える生徒、保護者の割合が85%以上をめざす。 ③ 「単元ごとにICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びのある授業を1回以上実践できた」と答える教員の割合が85%以上をめざす。	① 「学習活動に目標をもって計画的に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が63%、保護者の割合が46%であった。 ・『至誠ノート』で計画や日々の振り返りができた」と答える生徒の割合は45%であった。 ② 「中学校の授業は、わかりやすく工夫されている」と回答した生徒の割合が92%となり、目標を上回ることができた。 ・「中高一貫教育では、6年間でしっかりとした学力を身につけることができる」との肯定的な回答が、生徒の割合は91%、保護者の割合が78%となった。 ③ 「単元ごとにICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びのある授業を1回以上実践できた」と回答した教員の割合は92%であった。	総合評価 (評定) B ----- (所見) 「振り返りをする」「振り返りをする」「振り返りをする」に課題が見られる。生徒は「至誠ノート」で日々の記録ができてい。朝学の時間や日記を活用して、定期的に計画を立てたり、振り返りを行ったりするなどの取組を継続し、生徒が学び方を身に付けられるように支援を行っていく。授業での学習内容については生徒の肯定的回答で92%となり、目標を達成できている。問題解決学習や協働学習などの取組が、生徒にとって基礎学力の定着や深い学びにつながっていると思われる。中高でめざす生徒像「ARATAE-Ability」をもとに、中高6年間の継続的な学習につなげるための指導の研究を中高で共通理解を図りながら行っていく。	・自己調整能力の育成がうまくいかないのは、「記録の方法」「指導の仕方」「生徒への声かけ」に課題がある場合が多い。目標に対するの評価が記録できる方がよい。「至誠ノート」での「記録の方法」について見直しが必要ではないか。 ・評価指標③の項目については、ICTの活用回数ではなく、とくしま教員養成指標に合わせて、どのように活用できたかが分かるような指標が必要ではないか。	・「至誠ノート」の目的を、教師と生徒が共通理解できるようにする。 ・ICTの活用について、評価指標の見直しを行う。	
		活動計画	① 個別面談や学習時間調査を定期的に行い、生徒理解に努める。 ・朝の学習の時間に各教科の基礎問題に取り組み、基礎学力の定着を図る。 ・「至誠ノート」に学習計画や日々の記録を記入させる。 ・生徒が自らの学びを計画できるように支援を行う。 ② 中高でめざす生徒像「ARATAE-Ability」の共通理解を図るとともに、生徒と共有する。 ・教員相互の授業見学週間や中高合同教科会を実施し、教員の指導力向上に努める。 ③ 生徒の学びが深まるよう、ICTの効果的な活用や、意見交換において思考が深まる手立てを行う。 ・各教科における学習内容を教科横断的に学び、主体的に探究することのよさや、課題解決に向けて協働することのよさに気付けるよう、教科会や学年会等で共通理解を図る。	活動計画の実施状況			① 定期的に個人面談等を行い、生徒一人一人の学習習慣・生活習慣の見直しにつなげた。また、教員間で共通理解をもとに、生徒の支援や指導ができた。 ・朝の学習の時間にプリント学習やオンラインドリルの学習に取り組み、基礎学力定着に向けて、各自のペースで学習を進めている。 ・「至誠ノート」に学習や生活の目標や記録を継続的にとらせたり、月末や学期末に振り返りを行うことで、生徒が自らの学習や生活を振り返ることができるようにしている。 ② めざす生徒像について、生徒と共有するとともに、教室に掲示し、いつでも確認できるようにしている。 ・中高で「授業力向上のための授業見学」を年間2回行った。第1回は高校の授業を見学し、第2回は中学校が授業を公開した。また、中高合同教科会では、教科指導での取組や工夫について意見交換を行った。 ③ 学習の過程で出てきた疑問や、もっと知りたいことについてタブレットを活用して調べ、学びを共有させた。また、教科の学習や課題演習で、学び合いの場面を設定し、生徒同士の自発的な学習につなげている。 ・研究授業や相互授業参観等では校種や教科の垣根を越えて参観し、各教員の授業内容や指導の仕方を見聞きするとともに、多面的なアドバイスをし合い、指導方法の研究につなげた。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題		
		評価指標			評価指数による達成度				
(3) 生徒の能力・適性に応じたキャリア教育の実現	① 進路指導の改善・充実を図り、進路に向けての意欲を高める。 ② 三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。	① 「他学年との交流から学ぶことは、自身の学校生活に役に立つ」について、肯定的回答が85%以上をめざす。 ・『『フューチャー』でのキャリア教育や、発達段階に応じた体験活動が進路選択に役立つ』についての肯定的回答が85%以上をめざす。 ② 「進学説明会や面談が将来を見据えた進路を考えるうえで役立つ」についての肯定的回答が85%以上をめざす。	① 生徒の93%、保護者の93%が「生活オリエンテーション」、「先輩から学ぶ」、「スペシャルアプローチ(SA)」が学校生活に役立つと回答した。 ・生徒の87%、保護者の90%が「フューチャー」でのキャリア学習や体験活動が進路選択に役立つと回答した。 ② 3年生の88%、3年生の保護者の81%が、高校の進学説明会、二者面談・三者面談が将来を見据えたうえで学校生活を送ることに役立つと回答した。		・評価指標①の生徒・保護者の肯定的な回答の高さは、中学生が高校生と語り合ったり、高校の学習に触れたりすることがキャリア学習として有効であるということを示している。総合評価が「B」となっているが、「A」でもよいのではないか。		・生徒の能力・適性に応じたキャリア教育の実現のために、総合的な学習の時間や進路指導の充実を図る。高校生を含め、他学年と交流する機会が増えるよう教育活動を検討する。		
		活動計画	活動計画の実施状況					(評定) B ----- (所見) ①の項目において、肯定的回答が生徒・保護者共に85%以上となっており、おおむね達成していると思われる。②の項目では、保護者の肯定的な数値が指標を下回った。「スペシャルアプローチ(SA)」や「先輩から学ぶ」などの高校と連携した取組についても、ホームページ等で保護者や地域の方々に対して周知し、進路について参考にできるようにしたい。	
		① ・スペシャルアプローチ(SA)や先輩から学ぶなどの併設高校と交流する機会の充実や進路講演会を設けたり、各種検定に目標をもたせて取り組ませたりすることで、6年間を見通した学校生活の目標や将来の進路に向けた意欲をもてるよう細やかな進路指導に努める。 ・総合的な学習の時間において様々な体験学習を取り入れ、将来への展望をもたせるとともに、持続性・発展性をもたせて構成し、生徒の能力や適性を伸ばしていく。		① ・各学年に応じた進路指導を行った。課題演習では、質問タイムの他に、自分の学習状況を見つめ直し、得意不得意教科や分野を考えたり、苦手な教科や分野を克服するための具体的な学習方法を考えたりした。3年生では、「スペシャルアプローチ(SA)」を各教科1時間行った。高校の先生から教科の授業だけでなく、進路や高校生活についての話を聞く機会ももつことができた。 ○生活オリエンテーション 全学年 4月 ○先輩から学ぶ 2年生 11月 ○スペシャルアプローチ 3年生 2月 ① ・総合的な学習の時間 体験学習 ○福祉体験学習 1年生 7月 ○職場体験学習 2年生 11月 ○職場体験学習発表会 1・2年生 12月					
		② 各学期において、PTA年次会や二者面談・三者面談などの面談週間を設定し、将来の進路を見据えて生徒や保護者の個別相談に応じる。そして、川島高校の授業の様子や卒業後の進路の状況を教員がしっかりと把握し、丁寧に伝える。		② PTA年次会や面談を行い、保護者と生徒の情報について共有した。その面談内容を適切に教員間で共有し、生徒の実態に合わせた細やかな指導を検討した。					

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度			
(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ② あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。	① ・校則や交通ルールの遵守をめざし、85%以上が「交通ルールを守れている」と回答できるようにする。また、登下校時の交通事故ゼロに努める。 ・「あいさつをよくしている」との回答を85%以上とする。 ・「家庭でルールを話し合い、携帯電話を正しく使っている」との回答を85%以上とする。 ② 「いじめ等がなく安心・安全に学校生活を送れている」との回答を、85%以上とする。	① ・校則、交通ルールに関して生徒93%、保護者96%が守れていると回答している。また、登下校時の交通事故は0件であった。 ・生徒85%、保護者90%があいさつをよくしていると回答した。 ・携帯電話に関しては、生徒86%、保護者73%が正しく使用していると回答している。使用に関して生徒、保護者としっかり連携して管理する必要がある。 ② 生徒92%、保護者91%が「いじめ等がなく安心・安全に生活を送れている」と回答した。	(評定) B ----- (所見) 自転車運転中の自損事故や交通事故が本年度は0件であった。R8年4月より道路交通法が改正となり、16歳以上から自転車への青切符が導入されるため、中学生の年代から交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。	・中学生のトラブルは携帯電話から始まることが非常に多い。外部講師による講義の内容を教えてください、参考にしたい。 ・生徒のSNSへの画像・動画の投稿については社会的にも大きな問題となっている。知らないうちに自分が加害者、犯罪者になりうるということを生徒が知ることで、生徒の行動も変わる。		
		活動計画 ① ・3年生による生活オリエンテーションを実施し、学校や社会のルールやマナーを守ることが、互いにとって気持ちのよい安全な生活につながることを確認させる。また、徒歩・自転車・JR・保護者送迎通学等、それぞれの通学状況に応じた交通安全指導や下校指導を行い、登下校時の事故防止について啓発する。 ・教員が率先してあいさつすることにより、生徒相互や教員・保護者等の来客者に対してあいさつすることのよさを実感させるとともに、各学期において生徒会役員を中心にあいさつ運動を実施する。 ・教科指導における活用の中で、また携帯電話利用安全教室等の外部講師による講習会や生徒会による啓発活動を行い、情報モラル教育の推進に努める。 ② 生活に関するアンケートの実施や「至誠ノート」の記述からいじめの早期発見に努めるとともに、いじめ防止対策委員会の活動の活性化を図る。	活動計画の実施状況 ① ・3年生による生活オリエンテーションを実施し、1年生は学校のルールやマナーを守ることの重要性を確認できた。また、入学説明会等では、生徒や保護者へ校則の周知徹底を図った。 ・交通安全教室の実施 ・喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実施 ・非行防止作文・ポスター作成 ・教員立哨指導 ・阿波吉野川警察署と合同で交通安全運動 ・外部講師によるスマートフォンの使用についての講義 ・生徒会の呼びかけ等の啓発活動 ・全校集会、学年集会での指導 ② 生活アンケートや「至誠ノート」をはじめ、普段の生活状況等を担任が注意深く観察し、いじめの早期発見に努めた。また、問題行動等が見受けられた場合、速やかに教員間で連携を図るとともに保護者に連絡を取り、面談の場を設けた。	スマートフォンの使用については、使用状況や問題が表面化しづらく、正しい使用ができていないか判断が難しい。入学説明会で保護者同席のもと、警察の方に携帯電話安全教室を実施していただいたり、中学生集会や学年集会で共通理解を図ったりしている。保護者との連携が不可欠であるため、保護者への啓発活動を活発に行う必要があると考える。 全教員が日々の教育活動全体で生徒の様子を観察し、変化や問題があった際には、教員間で共通認識を持ち、チームとして問題にあたることができた。	・スマートフォンやタブレットの適正な利用について、生徒だけではなく、保護者も一緒に学ぶ機会を設ける。		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指数による達成度	総合評価			
(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	① 人権尊重の視点に立った学校づくりを推進し、人権問題を自分ごととしてとらえ、解決に向けて行動できる生徒の育成に努める。 ② 互いのよさや可能性を認め合っ、人権学習の学びを日常生活に生かせるようにする。 ③ 人権委員会の活性化や家庭と連携した人権教育に取り組む。	① 「人権学習に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合が85%以上をめざす。 ② 「人権の大切さを学び、それを日常生活に生かそうとしている」と思う生徒の割合が85%以上をめざす。 ③ 「人権を大切にしている」と思う保護者の割合が80%以上をめざす。	① 「人権学習に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が82%にとどまり、評価指標を達成していない。 ② 生徒の90%が、「人権の大切さを学び、日常生活に生かそうとしている」と回答し、評価指標を十分達成している。 ③ 保護者の82%が、「本校では、人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている」と回答し、評価指標を達成している。	(評定) B		・卒業式の答辞で修学旅行の話があり、修学旅行の目的に平和学習があるということが生徒の中にしっかりと位置づけられていることや、学び得たことが自分の生活の中で生きるような学習がされていることが伝わってきた。総合評価が「B」になっているが、「A」でもよいのではないか。 ・生徒が多様な「ひと・もの・こと」に出会う機会を意図的に設け、家庭や地域との連携を図りながら自主的な活動を促進することで、人権教育の充実につなげる。	・体験的な学習を系統的に取り入れ、生徒が人権を自分ごととして考えることができるようにする。そのために、学習のねらいを明確にし、計画的に取り組む体制を整えていく。 ・生徒が多様な「ひと・もの・こと」に出会う機会を意図的に設け、家庭や地域との連携を図りながら自主的な活動を促進することで、人権教育の充実につなげる。
		① ・県人権教育推進方針に沿って、同和問題の解決に向けた取り組みをはじめとする様々な手法を生かした計画的な人権学習を実践し、あらゆる人権問題を自分ごととして解決していこうとする態度を養う。また、第三次とりまとめに示されている人権尊重の視点に立った学校づくりを推進する。 ・生徒一人一人が大切にされる授業の実践に向けて、教職員人権教育研修会や学年ごとの授業検討会を行い、教員の人権意識・指導力向上に努める。 ② 教育活動全体を通して、人間関係づくりや意見交換の機会を設け、自分の人権、他者の人権を尊重する意識や態度を身に付けさせ、人権学習の学びを日常生活に生かせるように実践していく。 ③ ・人権委員を中心とした毎月の「人権の日」の放送や人権コーナーの設置、校内人権問題意見発表会の開催等の啓発活動を通じて、学校生活全体において人権が尊重され安心して過ごせる環境づくりに努める。 ・人権のつどいや人権教育講演会の周知を Microsoft Forms 等を活用しながら行い、各家庭からの参加を募る。また学校で行っているPBSやエンカウンターなどの自尊感情を高める取り組みを、面談やホームページ等を通して家庭に周知し、家庭でも同じような取り組みができるように促す。	① 各教科における人権年間計画を作成し、人権教育の推進を図った。 ・「わたしの願い」や人権教材のDVD等を活用し、普遍的な視点と個別的な視点を結び合わせながら、各学年での内容の充実を進めた。 ・1年生では、福祉体験活動等を通して、身のまわりにある人権問題を自分の問題として考える意欲を育んだ。 ・2年生は、識字学級との交流を通して、その「想い」にふれ、差別をなくすためにどのような生き方をしていくかについて意見交換し、自分ごととして考えを深めた。 ・3年生では、沖縄戦についての事前学習を行い、修学旅行で沖縄を訪れた。沖縄戦の際に防空壕として使われたガマに入る体験や、沖縄戦の語り部からの話等を通して、生徒たちは、自分たちの手で平和な社会を築こうとする意識を高めた。 ② コミュニケーション能力や相手の立場に立って考えられる想像力を育むために、生徒が意見交換をする機会を適宜設けた。また、教育活動全般を通して、ポジティブな行動支援を行い、相手を尊重しようとする意識や態度を身に付けることができた。 ③ ・月1回「人権の日」を設け、中高合同で様々な人権問題について考える時間を設けた。校内放送では、従来の形式を改善し、人権問題について全校生徒に問題提起を行い、人権を尊重する雰囲気を醸成しようと努めた。 1年生：福祉体験学習 7月 2年生：識字学級との交流 6月 3年生：平和講話 5月 全学年：校内人権問題意見発表会 6月 人権教育講演会 11月 「人権の日」の放送 7月 12月 いじめ防止一斉学習 12月 ・「人権のつどい」や人権教育講演会の周知を行い、保護者の参加を募った。	(所見) 本校は、県内の様々な学校から入学してきているという実態があり、人間関係づくり・仲間づくりを大切にしながら、実践を重ねている。 各教科の授業においては、話し合い活動や表現活動を多く取り入れることで、生徒が主体的に学習に取り組めるように授業形態を工夫している。 各学年の取り組みによって、1年生は生きて働く力の育成、2年生は人権学習への積極性の涵養、3年生は平和を求める意識の向上へとつながった。 また、「人権の日」の放送では、1・2年生は人権学習で学んだことや感じたことを、3年生は修学旅行で見たり聴いたりして学んできた平和学習について、自分の言葉でまとめ、全校生徒に発表することによって、身近に存在する人権問題を自分ごととして捉える機会となった。 家庭への周知や人権に関する行事への参加のお願いを Microsoft Forms 等を活用して行うことで、家庭と連携を図りながら、人権教育を推進していく。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標		評価指数による達成度				
			活動計画	活動計画の実施状況				
<p>(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動等の充実</p>	<p>① 学校行事、生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。</p> <p>② 学級活動や部活動のより一層の充実と活性化を図る。</p>	<p>① 「学校行事に積極的に参加している」と思える生徒を80%以上とし、保護者の理解も80%以上得られるようにする。</p> <p>② 「3年間を見通した体験学習が、豊かな心を育むために役立っている」と思える生徒、保護者を80%以上にする。また、中高が連携した部活動指導が行えるよう、教員同士が積極的に情報共有する。</p>	<p>① ・ 生徒や教員アンケートから出た学校行事等の目的や運営のあり方を、生徒会を中心として見直し、生徒が主体性をもって参加できる活動を通して、生徒の自主性の育成に努める。</p> <p>・ 生徒会専門委員会を毎月開催し、学校をよりよくするための活動計画を立てたり、振り返りを行ったりして生徒の自主性を尊重した生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>② ・ 中高が連携した部活動指導が行えるよう、日程調整を図る。</p> <p>・ 学校生活や学級などの身近な課題について話し合う時間を設定し、合意形成の大切さを理解させるとともに、一人一人の意見が尊重され安心して発言できる雰囲気づくりに努める。</p>	<p>① 生徒の91%が学校行事に積極的に参加していると回答し、保護者の94%が学校行事が適切に行われていると回答している。</p> <p>② 生徒の94%、保護者の93%が、体験学習は豊かな心を育むために役立っていると回答し、生徒の72%、保護者の62%が、本校の部活動が活発に行われていると回答している。</p>	<p>① ・ 生徒会役員が学校行事や校則の見直しに関する意見を生徒全体から募るため、目安箱を設置している。また、デジタル目安箱の設置も検討中である。生徒会役員を中心に行事や校則の見直しについて検討した。</p> <p>・ 毎月の専門委員会を実施し、各専門委員会の活動計画を、中学生集会で全校生徒に周知したり、ボードに掲示したりした。</p> <p>② ・ 一部の部活動では中高の顧問間で日程の調整を行い、部活動指導を行った。顧問の中には未経験の競技を指導していることもあり、高校の教員から専門的な指導を行うことができた。</p> <p>・ 教育活動全般において、生徒が自分の意見や存在が周りから承認されているという意識を持ってようポジティブな行動支援を行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>生徒会を中心として、生徒が主体となり、新しいルール作りや既存のルールからの変更を行った。また、その際には、生徒たちがメリット・デメリットを考え、教員にプレゼンテーションをするなど、学校生活をよりよいものにしようとする姿が見られた。</p> <p>部活動については、生徒・保護者からのアンケート結果を踏まえて改善する必要がある。特に、外部指導者員や地域クラブへの移行が進んでおらず、専門外の教員にできることも限られているため、生徒の部活動への意欲と教員の負担のバランスがとれていない。高校の部活動に参加できるものは高校教員からの専門的な指導を受けるなどして、中高一貫校としての特色を生かしたいが、引率などの問題も多く、検討が必要である。</p>	<p>・ 専門外の部活動を教員が担当するのは大変だが、中高一貫教育校であることから、高校の教員から指導を受けることができるメリットがある。</p> <p>・ 部活動の地域展開は受け皿がなく、なかなか進んでいないのが現状である。部活動でも中高一貫教育校の特色を生かすことができたらよいと思う。</p>	<p>・ 生徒会が中心となり、学校行事や校則の見直し等を検討する場として生徒総会の機会を設けることを検討している。</p> <p>・ 部活動のあり方については、国や県の方針を踏まえて検討を継続していく。また、校内の活動については、外部指導員を招くことや、高校との連携の強化など様々な視点から改善していく。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指数による達成度		
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>①とくしまGXスクールの認定を機に、環境保全活動に対する意識の向上に努める。</p> <p>②異文化理解と語学力の育成に向け、積極的に国際交流を図る。</p>	<p>①「日頃の清掃活動に熱心に取り組み、ゴミの分別等に努め、環境美化を心がけている」と回答する生徒の割合が85%以上をめざす。</p> <p>②「外国の言語や文化にふれ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と思える生徒が85%以上となるようにする。</p>		<p>①「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合が73%であり、目標から12ポイント下回った。</p> <p>②「外国の言語や文化にふれ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と回答する生徒が91%であり、昨年度より2%上昇した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>環境委員やSDGs部だけでなく、生徒一人ひとりが環境美化への意識をもち、学校を公共の場として捉え、自分の使った場所は自分で綺麗にするという意識づけが、今後もより一層必要である。</p> <p>主に総合的な学習の時間のグローバルや異文化交流会において国際理解教育に取り組んできた。年度ごとに国際理解教育の見直しを図り、生徒の実態に合わせて、コミュニケーション能力や語学力の育成ができるよう努めることで、目標を達成することができた。</p>	<p>学校関係者の意見</p>	<p>・環境委員会による啓発活動を中心として、身の回りの課題に自ら気づき、行動に移すことができる生徒の育成を図る。</p> <p>・グローバルな視点をもつ生徒を育成するために、異文化理解に関わる行事や活動の一層の充実を図る。</p>
		活動計画		活動計画の実施状況			
		<p>①・環境委員会やSDGs部による啓発活動を通して、身の回りの課題に気づき、清掃やリサイクル活動に取り組む。</p> <p>・環境委員会が中庭花壇の水やりを当番制で行ったり、部活動後の生徒昇降口の清掃活動呼びかけたりして、校内の美化とともに全校生徒の環境美化に対する意識喚起に努める。</p> <p>②異文化交流会の企画や、総合的な学習の時間の「グローバル」の授業、大阪・関西万博への校外学習を通して、留学生をはじめとする海外の方と交流する機会を定期的に設け、異文化理解と語学力の育成に努める。</p>		<p>①環境委員の生徒が中心となって、中庭の花壇の水やりを行ったり、各教室から出た古紙を回収したりして、環境美化やリサイクル活動に努めた。さらに古紙のリサイクルの協力への呼びかけをクラスで行った。また、SDGs部の取組として、ペットボトルキャップの回収も行った。生徒が主体的に汚れた玄関や廊下などの清掃を行う姿も見受けられた。環境安全教育担当の教員を中心に、校内全体の環境整備に努めた。</p> <p>②・20名ほどの生徒が参加して四国大学の留学生と交流し、異文化を学ぶ機会をつくるとともに、英語で積極的にコミュニケーションを図る場を設け、有意義に交流することができた。</p> <p>・大阪・関西万博への校外学習を通して、自国文化への知見を深めたり、世界の多様な文化について視野を広げたりすることができた。</p> <p>・総合的な学習の時間のグローバルの時間では、1～2週間に1回必ずALTとの活動があり、日頃の英語学習の復習をしながら、瞬発的なコミュニケーション能力を高めている。また3年生では、今年度より学期に2回程度ALTとともに海外ボランティアの方と交流する機会を設定し、様々な社会課題についてやりとりをしたり、英語でプレゼンを行ったりした。</p> <p>・では週に1回ALTとの活動の中で、異文化理解や英語でコミュニケーションを図るためのスキルを養い、グローバルな視点をもつ素地を養っている。</p>	<p>①環境委員の生徒が中心となって、中庭の花壇の水やりを行ったり、各教室から出た古紙を回収したりして、環境美化やリサイクル活動に努めた。さらに古紙のリサイクルの協力への呼びかけをクラスで行った。また、SDGs部の取組として、ペットボトルキャップの回収も行った。生徒が主体的に汚れた玄関や廊下などの清掃を行う姿も見受けられた。環境安全教育担当の教員を中心に、校内全体の環境整備に努めた。</p> <p>②・20名ほどの生徒が参加して四国大学の留学生と交流し、異文化を学ぶ機会をつくるとともに、英語で積極的にコミュニケーションを図る場を設け、有意義に交流することができた。</p> <p>・大阪・関西万博への校外学習を通して、自国文化への知見を深めたり、世界の多様な文化について視野を広げたりすることができた。</p> <p>・総合的な学習の時間のグローバルの時間では、1～2週間に1回必ずALTとの活動があり、日頃の英語学習の復習をしながら、瞬発的なコミュニケーション能力を高めている。また3年生では、今年度より学期に2回程度ALTとともに海外ボランティアの方と交流する機会を設定し、様々な社会課題についてやりとりをしたり、英語でプレゼンを行ったりした。</p> <p>・では週に1回ALTとの活動の中で、異文化理解や英語でコミュニケーションを図るためのスキルを養い、グローバルな視点をもつ素地を養っている。</p>		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題									
		評価指標			評価指標による達成度											
<p>(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進</p>	<p>① 地域貢献活動等などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実、地域との連携を深め、外部評価結果を生かす取組を推進する。</p> <p>② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め地域防災を担う人材を育てる。</p>	<p>① 「参観日やオープンスクールを通して、学校の特色が伝わっている」と思う保護者の割合が80%以上をめざす。「学校外の方との交流の機会が多く設けられている」と思う生徒の割合が80%以上をめざす。</p> <p>・「ホームページは、学校の広報活動に役立っている」と思う保護者の割合が80%以上をめざす。</p> <p>② 防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合が80%以上をめざす。</p>	<p>① 保護者の80%が、「参観日等を通して学校の様子伝わっている」と回答しており、生徒の73%が「学校外の方との交流の機会が多く設けられている」と回答している。</p> <p>・保護者の78%が、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と回答している。</p> <p>② 生徒の82%が、「避難訓練や防災学習に積極的に取り組んでいる」と回答している。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>評価指標①で、「参観日やオープンスクールを通して、学校の特色が伝わっている」と思う保護者の割合が80%を上回ったが、「学校外の方との交流の機会が多く設けられている」と「ホームページは、学校の広報活動に役立っている」と思う保護者の割合が80%を上回らなかった。生徒にアンケートを取るなどして、生徒にとって魅力ある交流ができるように改善する。</p> <p>今年度も参観日を2回実施することができ、授業内容を通して本校の特色ある教育活動を広報する機会となった。</p> <p>ホームページについては、おおむね肯定的なアンケート結果の数値となっている。学校の魅力が伝わるよう、引き続き改善を進めていきたい。</p> <p>防災学習については、総合的な学習の時間や避難訓練、地域合同防災訓練を通して、生徒の防災意識と実践力の向上が見られた。</p>	<p>・ホームページの更新については、今の時代だからこそ、スピード感が必要であると思う。行事当日や翌日にホームページが更新されていれば、生徒や保護者がすぐに閲覧でき、地域への発信力が高まる。</p>	<p>・情報の更新をより迅速に行い、本校の魅力発信の充実を図る。</p>										
							活動計画	活動計画の実施状況								
	<p>① 地域や高校と連携した取組、外部講師を招聘しての授業や体験活動など特色のある教育活動を計画的に実践し、参観日やオープンスクール、ホームページ、メール等で広報する。</p> <p>・本校の特色のある教育活動がわかるスクールガイドやPTA広報紙「絆」を作成し、家庭や地域、小学校等の関係機関に配付するとともに、学校の魅力が伝わるホームページの充実を図るため、すべての教員が発信・更新できるよう研修に努める。</p> <p>② 校内の防災避難訓練の事前・事後指導を行うとともに、総合的な学習の時間に外部講師や高校生のファシリテーターによる防災学習を実施し、防災意識の高揚と災害時における人権問題を仲間と解決していこうとする態度を養う。</p> <p>・近隣の学校に防災フィルムを貼りに行ったり、地域の方と防災避難訓練を実施したりして、地域と連携し、地域の防災を担う人材を育成する。</p>	<p>① 5月17日と11月4日の参観日は参加率がそれぞれ61%と35%であった。9月20日と11月4日実施の入学募集説明会では小学生の児童・保護者が合わせて約70世帯が参加した。7月11日には3学年対象の高校説明会を実施した。パンフレットおよびPTAの企画広報委員会による広報誌『絆』を作成し、入学募集説明会等で配布した。小学校説明会は小学校13校で実施した。</p> <table border="0"> <tr><td>・薬物乱用防止教室</td><td>5月</td></tr> <tr><td>・識字学級交流会</td><td>6月</td></tr> <tr><td>・福祉体験学習</td><td>7月</td></tr> <tr><td>・交通安全講話</td><td>7月</td></tr> <tr><td>・職場体験学習</td><td>11月</td></tr> <tr><td>・非行防止教室</td><td>12月</td></tr> </table> <p>② 7月と12月には、中高合同で避難訓練を行い、訓練の様子について、地元消防署の方に講評をしていただいた。特に12月の訓練には、地区自主防災会も参加して、地域合同防災訓練を実施し、1年生と避難所設営等の訓練を行った。11月には、生活委員の生徒が鴨島支援学校に防災フィルムを貼りに行くことで、地域防災の一端を担うという自覚を促すよい機会となった。</p>	・薬物乱用防止教室	5月			・識字学級交流会	6月	・福祉体験学習	7月	・交通安全講話	7月	・職場体験学習	11月	・非行防止教室	12月
			・薬物乱用防止教室	5月												
・識字学級交流会	6月															
・福祉体験学習	7月															
・交通安全講話	7月															
・職場体験学習	11月															
・非行防止教室	12月															